



福岡医発第 0474 号 (地)

平成 27 年 5 月 13 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会  
会長 松 田 峻一良  
(公 印 省 略)

産科医療機関における HTLV-1 抗体検査実施状況調査結果及び、  
行政への HTLV-1 に関する相談状況調査結果について

今般、平成 26 年の産科医療機関における HTLV-1 抗体検査実施状況調査結果及び行政への HTLV-1 に関する相談状況調査結果について、別添のとおり福岡県保健医療介護部健康増進課より情報提供がありましたのでお送りいたします。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただき、貴会会員への周知方よろしく願いいたします。

---

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 田中泰之  
会長 廣瀬真恵

「公印省略」

2 7 健 第 2 3 3 号

平成 2 7 年 4 月 1 3 日

公益社団法人福岡県医師会長 殿

福岡県保健医療介護部健康増進課長  
(母子保健係)

産科医療機関における HTLV-1 抗体検査実施状況調査結果及び、  
行政への HTLV-1 に関する相談状況調査結果について (送付)

本県の母子保健対策の推進については、日頃から御理解と御協力をいただきお礼申し上げます。

さて、平成 2 6 年標記調査結果がまとまりましたので送付します。調査へのご協力ありがとうございました。

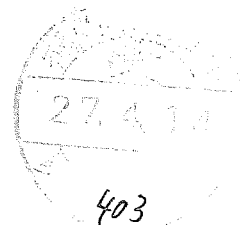
なお、福岡県産婦人科医会長には、別途、関係医療機関への周知をお願いしています。

福岡県保健医療介護部健康増進課

母子保健係 担当 若松

TEL : 0 9 2 - 6 4 3 - 3 3 0 7

FAX : 0 9 2 - 6 4 3 - 3 2 7 1



## 産科医療機関におけるHTLV-1抗体検査実施状況調査（平成26年）について

- 1 調査対象期間 平成26年1月1日～12月31日
- 2 調査方法 アンケート調査（対象機関へ調査票を郵送しFAXで回答）
- 3 調査対象機関 県内の分娩取扱い施設 126施設（平成26年1月現在）
- 4 調査結果 回答数 102施設（回答施設の割合 80.9%）

### 5 検査結果及びその対応

#### (1) HTLV-1抗体検査

ア 一次検査（PA法またはCLEIA法）の受検者数等

- 受検者数 38,527人
- 拒否者数 0人

イ 一次検査結果

- 陽性者数（率） 214人（0.56%）

エ 陽性者がいた74施設における、妊婦さんへの説明に要する時間

- 9.9分

オ 一次検査陽性者214人の自施設での確認検査（WB法）実施の有無と検査結果

- 実施 186人
- 未実施 28人（再掲 既にキャリア診断されている人：20人）

確認検査実施者186人の検査結果（実施者に占める割合）

- 陽性【キャリア】（率） 111人（59.7%）
- 判定保留（率） 24人（12.9%）
- 陰性（率） 51人（27.4%）

カ 一次検査受検者に占めるキャリアの人数、割合

- 人数：自施設で確認検査未実施者の内、既にキャリア診断されている人（20人）  
+ 確認検査陽性者人（111人）＝131人
- 割合：0.34%

参考）厚生労働科学研究補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「HTLV-1抗体陽性妊婦からの  
出生児のコホート研究 平成23-25年度総合研究報告」 推定妊婦キャリア率 0.16～0.17%

キ 自施設で確認検査を行わなかった理由（複数回答可）（実人数28人）

- 既にキャリアと診断されている 20人
- 里帰り先の医療機関で実施 2人
- 1次スクリーニングで陽性と判定された時点で、母子感染防止対策を実施するため 0人
- 妊婦に無用の心配をさせないため 0人
- 妊婦（家族）が検査を拒否 2人
- その他  
・大学病院等で実施 2人  
・今後実施予定 2人  
・再検査の結果待ちであるため 1人

ク 確認検査を拒否した妊婦（2人）の理由（複数回答可）

- 1回受けているから実施しない（キャリアと診断されている） 1人
- 確認検査の必要性等を説明したが、確認検査を実施せず、断乳・短期授乳をしたいという強い意向があったため 1人

ケ 確認検査結果が判定保留の妊婦（24人）のPCR検査の実施の有無とPCR検査未実施の場合の児の栄養選択

- PCR検査実施 8人
- PCR検査未実施 14人
- その他 2人（再検査実施 1人、大学病院専門外来を紹介 1人）

PCR検査未実施者（14人）の児の栄養選択の対応

- ・通常の授乳を勧めた 2人
- ・授乳を避けることを勧めた 2人
- ・授乳法について妊婦の判断に任せた 9人
- ・その他1人（PCR法を妊婦が希望せず短期授乳を選択）

コ 確認検査結果が陽性又は判定保留の妊婦がいた58施設における、妊婦さんへの説明に要する時間

- 11.8分

(2) 確認検査で陽性又は判定保留の妊婦がいた58施設における、母子感染防止指導、及び出生した児のHTLV-1抗体検査について

ア 確認検査で陽性又は判定保留妊婦への母子感染防止指導についてどのように対応したか（複数回答）

- 自施設で感染防止指導等を実施 58施設（100%）
  - 再掲）使用している媒体
    - ・「よくわかる詳しくわかる HTLV-1（平成22年度厚生労働科学研究）」 16施設（27.5%）
    - ・「HTLV-1キャリアのみなさまへ（平成22年度厚生労働科学研究）」 14施設（24.1%）
    - ・「HTLV-1キャリア相談支援（カウンセリング）に役立つQ&A集（平成25年度厚生労働科学研究）」 10施設（17.2%）
    - ・医療機関独自作成資料 14施設（24.1%）
    - ・その他の媒体 22施設（37.9%）

産婦人科診療ガイドライン産科編2014  
 HTLV-1母子感染予防対策医師向け手引き  
 HTLV-1母子感染予防対策保健指導マニュアル  
 HTLV-1抗体検査陽性献血者への説明用参考資料（医師用）日本赤十字社  
 陽性者への説明に役立つQ&知識  
 「妊娠中のお母さん知っていますか？成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）ウイルス検査について」長崎県ATLウイルス母子感染防止研究協力事業連絡協議会  
 HTLV-1から赤ちゃんを守りましょうQ&A  
 厚生労働省リーフレット「母子感染を知っていますか」  
 検査機関作成の資料  
 医学書

- ・口頭のみ 7施設（12.1%）

- 感染防止指導等のため、必要に応じ医療機関を紹介 8施設（13.8%）
- 特に感染防止指導等はしていない 0施設（0%）
- その他 2施設（全て大学病院専門外来を紹介、日常生活指導及び母乳抑制の説明）

イ 出生した児のHTLV-1抗体検査について、主にどのように対応しているか

- 児の検査は3歳以降に実施可能であることを説明し、3歳になったらなるべく早い時期に検査を受けるよう指導している 10施設(17.2%)
- 児の検査は3歳以降に実施可能であることを説明し、3歳以降に検査を受けるよう指導している 7施設(12.6%)
- 児の検査は3歳以降に実施可能であることを説明し、検査をするかどうかは、両親で判断するよう説明している 6施設(10.3%)
- 児の検査は3歳以降に実施可能であることのみ説明している 6施設(10.3%)
- 特に指導していない 18施設(31.0%)
- その他 11施設(18.9%)

- ・小児科を紹介：7施設
- ・血液内科を有する大学病院等を紹介：3施設、
- ・質問があった場合は児の検査は3歳以降に実施可能であることを説明し検査するかどうかは両親で判断するよう説明している：1施設

ウ 児を紹介した医療機関名および診療科(順不同)

| 児の紹介先医療機関         |                 |
|-------------------|-----------------|
| JCHO 九州病院         | 小児科             |
| 産業医科大学病院          | 小児科             |
| 新水巻病院             | 小児科             |
| 北九州市立医療センター       | 産婦人科、小児科、血液内科   |
| 福岡大学病院            | 小児科、腫瘍・血液・感染症内科 |
| 小倉医療センター          | 小児科、産婦人科        |
| 九州労災病院            | 産婦人科            |
| 聖マリア病院            | 産婦人科、小児科        |
| 久留米大学病院           | 小児科、血液内科        |
| おおしまこどもクリニック(糟屋郡) | 小児科             |
| 三田医院(糟屋郡)         | 小児科             |

## 行政機関へのHTLV-1に関する相談状況について

1 相談受付期間:平成26年1月～平成26年12月

2 相談件数:15件(内 市町村・・11、県保健福祉環境事務所・・4) ※H25年26件、H24年18件、H23年47件

### 3 相談内容

| No. | 相談分類                  | 相談者                           | 相談内容                                                                                                                                                                                  | 相談に対する対応                                                                                                                                                    |            |
|-----|-----------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1   | ATL等HTLV-1関連疾患<br>・授乳 | 妊産婦<br>(キャリア)                 | ・妊婦健診にてHTLV-1の検査結果が陽性であり、産婦人科で説明を受けたが、詳しい内容でなかったため聞きたいと保健所窓口へ夫婦で来所。<br>・授乳に関することと、今後の健康管理について聞きたい。                                                                                    | ・厚生労働省作成のHTLV-1に関する資料を見ながら説明。<br>(ATLとHTLV-1のQ&A 厚生労働科学研究(HTLV-1の母子感染予防に関する研究))<br>・授乳に関するデータの見方、定期的な健康診査、専門外来について説明。                                       | 市町村        |
| 2   | 授乳                    | 妊産婦                           | ・他県からの里帰り出産の妊婦。<br>・妊婦健診を受けた他県の病院から、「数値が16でギリギリだが母乳保育は大丈夫」と言われたが、出産する病院では「安全のためミルクで」と言われた。母乳を与えて良いかどうかわからない。                                                                          | ・県保健福祉環境事務所に問い合わせ後、福岡大学病院の専門窓口を紹介。                                                                                                                          | 市町村        |
| 3   | 検査・授乳                 | 妊産婦                           | ・抗体検査において「16倍未満」の結果が出た。医療機関からは「心配しなくてよい。授乳方法はどれでもよい。」と言われたが、だいじょうぶか。                                                                                                                  | ・当該医療機関の指示は一般的な知見に矛盾するものでないことから、その指示に従うよう伝えた。                                                                                                               | 県保健福祉環境事務所 |
| 4   | 授乳                    | 妊産婦<br>(産後2か月)                | ・妊娠中の抗体検査結果で「疑陽性」と医師から言われたが、それ以上の説明がなく、それが感染リスクがあるのか、再検査が必要なのかなどわからない。<br>・授乳方法について医師からは特に指導なし。<br>・母子感染が心配だが、半年は母乳を与えようと考えている。主治医に授乳方法について相談したほうが良いか。                                | ・確認検査をしたかなど、検査について尋ねたが不明。<br>・HTLV-1についての情報提供。(キャリアである場合の栄養選択方法について説明。母親は短期授乳の場合は3か月までであることを知っていたが半年授乳することを希望。)<br>・医師に検査結果の意味、再検査の必要性、授乳方法等について相談することを勧めた。 | 市町村        |
| 5   | 授乳                    | 妊産婦<br>(スクリーニング検査:陽性、確認検査:陰性) | ・確認検査で陰性だが、授乳による母子感染が心配。しかし、人工栄養にして病気が家族に露見し家族関係が悪化することが心配であるため、人工栄養にすることもためらわれる。(キャリアの友人が人工栄養にして家族に病気が露見し家族関係が悪化した)<br>・出産した医療機関の主治医から、授乳を継続するかどうかは母親が決定して良いと言われているが、自分では判断できず迷っている。 | ・妊婦の不安な気持ちを受容。出産した医療機関に再度相談し、主治医から再度説明をしてもらうよう促す。                                                                                                           | 市町村        |

| No. | 相談分類 | 相談者                              | 相談内容                                                                                                                                                                                                                                                                              | 相談に対する対応                                                                                                                                                                                                                                                      |     |
|-----|------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 6   | 授乳   | 妊産婦<br>(キャリア)                    | <p>(産後4か月 乳児全戸訪問事業での訪問時に相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2子妊娠中にHTLV-1のキャリアだと判明。</li> <li>・生後3か月まで短期授乳をする方針であったが、子どもが粉ミルクを受け付けず、生後4か月過ぎても粉ミルクを飲まないため、母乳を飲ませてしまっている。粉ミルクを飲ませるため瓶の乳首を変えるなど工夫したり、凍結母乳も試したが飲まない。</li> <li>・授乳期間を短くするため、離乳食を少し早めに始めてみようかと思う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防ため、完全に粉ミルクにすることを勧め、粉ミルクを飲ませる工夫等について助言。</li> <li>・また、4か月を過ぎてからも授乳していることや、子どもの消化機能のことを考えると、離乳食は早めの始めるのではなく、通常の時期に始めてもよいのではないかと助言。</li> <li>・現時点で母乳を飲んでいることや、今後の子どもの検査等については小児科の主治医にも相談するよう助言。</li> </ul>            | 市町村 |
| 7   | 授乳   | 妊産婦<br>(キャリア)                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3ヶ月になったら母乳をやめなさいと産婦人科より指導されているが、すでに母子感染しているなら母乳を続けたい。</li> </ul>                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳哺育による感染リスクについて説明。子どもに感染しているかどうかの検査はすぐにはできないため、感染の可能性がある限りは夫や主治医とも十分話し合うよう助言。</li> <li>・しかし、4か月健診時にも直接母乳を与えており、冷凍母乳はたまに与える程度であった。母親の母乳に対するこだわりは強かったが、4か月以降も母乳を与えることの危険性について情報提供し、7か月児健診時には完全に粉ミルクに移行していた。</li> </ul> | 市町村 |
| 8   | 感染経路 | 妊産婦<br>(キャリア)                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・母の弟(叔父)が、ATLの診断を受けた。母乳で感染の恐れがあると聞き、心配になった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査助成券のつづりにHTLV-1抗体検査があるので、結果を確認するよう勧めた。</li> <li>・陽性の場合は、医師から説明があるはずであること、今後の方針も相談しておくことを勧めた。</li> <li>・一般的な感染経路、陽性の場合の母乳・授乳時の注意点を説明。</li> <li>→今は外出中で手元に母子健康手帳が無いため、後で確認するとのこと。</li> </ul>                       | 市町村 |
| 9   | 検査   | 妊産婦<br>(スクリーニング検査陰性、<br>キャリアの家族) | <p>(市開催の母親教室に参加時相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父がATLで他界。妹はHTLV-1キャリア。</li> <li>・スクリーニング検査は陰性であったが、大丈夫か心配。</li> </ul>                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子感染対策について説明(キャリアである場合に必要なことについて説明)。</li> <li>・心配であれば再検査を含め、産婦人科で相談するよう助言。</li> <li>→後日、再検査実施。結果は陰性。</li> </ul>                                                                                                       | 市町村 |
| 10  | 検査   | 妊産婦                              | <p>(母子健康手帳交付の個別対応時に質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ATLの検査は受けた方がいいのか。</li> <li>・本人や家族にATL患者やキャリアがいるという話はない。深刻な感じはなく、ATLという言葉を知っている人からの質問といった印象。</li> </ul>                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査の初回の血液検査の項目にHTLV-1抗体検査が入っていることを説明。</li> <li>・検査について気になることがあれば、産婦人科で相談するよう助言。</li> </ul>                                                                                                                         | 市町村 |

| No. | 相談分類 | 相談者                        | 相談内容                                                                                                                        | 相談に対する対応                                                                                                                                                                   |            |
|-----|------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 11  | 検査   | その他<br>(H8年に<br>出産した<br>母) | ・母子手帳を見ていたら、HTLV-1抗体検査結果(凝集16未満)が貼り付けてあった。検査をされた記憶無く、説明もなかった。<br>・クラミジア検査とHTLV-1は同じものなのか？将来白血病になるのか？                        | 以下について説明。<br>・HTLV-1抗体検査は、他の血液検査と一緒に実施しており、異常がなかったため、説明が無かったのかも知れない。<br>・HTLV-1陽性であれば、授乳などで母子感染リスクがある為、授乳の方法等、医師から説明があったのではないかと。<br>・クラミジアとHTLV-1は全く別で、クラミジアで白血病に将来なる事はない。 | 市町村        |
| 12  | 検査   | 産婦(スクリーニング検査:陽性、確認検査:判定保留) | ・1か月前に出産。<br>・妊婦健康診査のスクリーニング検査で陽性反応が出たので、検査を受けたところ判定保留となった。さらに詳しい検査を自費2万円で受けるよう勧められたが、判定保留が出る確率など教えてほしい。                    | ・福岡県のWB検査のデータを説明。<br>・PCR検査については福岡、全国とも判定保留のデータがないことを説。<br>・福岡大学病院が相談等を受けていることについて情報提供した。                                                                                  | 県保健福祉環境事務所 |
| 13  | 感染経路 | 妊産婦(キャリア)                  | ・3月3日に出産。ミルク授乳であるが、母乳がよく出て衣類に染込み、それを子どもがしゃぶることがある。そこから感染はしないか。<br>(母乳の感染率を説明する中で、産科医療機関で説明を受けていない様子であったので、家庭訪問して説明することにした。) | ・3月14日家庭訪問。リーフレットを見せながら、病気の感染率、日常生活等に関して説明。<br>・HTLV-1キャリア外来(福岡大学病院)の説明をしたところ、受診を希望したため産科医療機関で紹介状をもらって受診予約するように助言。                                                         | 県保健福祉環境事務所 |
| 14  | 検査   | その他<br>(不明)                | ・保健所でHTLV-1の検査を行っていないのか。                                                                                                    | ・保健所でHTLV-1検査は行っていないため、検査を希望するのであれば産婦人科に相談するよう勧めた。                                                                                                                         | 市町村        |
| 15  | 検査   | その他<br>(不明)                | ・検査は簡単にどこでもできるのか。自分には症状は無いが、検査ができるか知りたい。<br>・近所の方、友人がHTLV-1で亡くなった。新聞で、20年ぐらいいないと発症しないと見て知っている。<br>・親、親戚でHTLV-1で亡くなった者はいない。  | ・もう少し詳しい状況を聞こうとしたが、答えなかった。検査は専門医療機関でできると返答し、福岡大学病院を紹介。                                                                                                                     | 県保健福祉環境事務所 |

#### 【福岡県HTLV-1母子感染対策協議会委員からの助言】

○No.5、9に関連して

スクリーニング検査陰性者、確認検査陰性者が感染を心配している場合、スクリーニング検査、確認検査の偽陰性はないと伝えた方が良いか。また、医学的にそのようなことが言えるものか。

→・100%陰性であることは保証できないので、妊婦自身の感染については、だぶん大丈夫でしょうとしか言えない。しかし、仮に妊婦が感染していたとしても、この場合はウイルス量が非常に少ないため、まず子どもに感染することはないでしょうということは伝えて良いのではないかと。

・検査の限界を考えると、検査で追及することも必要だが、妊婦に罪悪感をいだかせないためには、可能であれば家族全員に検査やその結果の意味を伝えるプロセスが大事である。

○その他の助言

人工栄養にすることで家族に病気が露見することが心配という場合は、短期授乳や冷凍母乳を提案してみるなど、ガイドラインで定められていること助言してはどうか。